

特集

第8回 SRお客様交流会

2009年 2月 6日(金)
in 大田区産業プラザPiO

「SRを有効活用するために情報交換ができる場を提供できないか?」と始まった、「SRお客様交流会」。今回で8回目を迎えることができました(約70社120名様参加)。「安全と環境」をテーマに、当日は4社様にご講演いただきました。

ご講演

1. 運輸安全マネジメントへの取り組み
独立行政法人 自動車事故対策機構 殿 P1
2. SRを利用して事故0(ゼロ)を目指す!!
大和ランテック東日本株式会社 殿 P2
3. SR評価点向上への取り組み
池町運輸倉庫株式会社 殿 P3
4. 燃費改善事例報告
スナックフード・サービス株式会社 殿 P3
5. データ・テック実験報告(その4)in交流会 P4

特集
1

運輸安全マネジメントへの取り組み

独立行政法人 自動車事故対策機構

安全指導部 **黒仁田 祥三** 様



独立行政法人 自動車事故対策機構 (NASVA)

本部所在地：東京都千代田区麹町6-1-25上智麹町ビル TEL：03-5276-4451 FAX：03-3239-9468
営業拠点：本部、地方機関50 [主管支所9 (札幌・仙台・新潟・東京・名古屋・大阪・広島・高松・福岡)、支所41]、
運営委託4 [療養センター4 (千葉・東北・岡山・中部)]
代表者：理事長 金澤 悟

会社概要

NASVAの5つの事業

1 自動車アセスメント

- ・自動車、チャイルドシート
の安全性を評価し、結果を公表



2 自動車事故防止のための事業

- ・運行管理者等指導講習
の実施
- ・運転者の適性診断



3 ナスバネットの運用

- ・24時間365日、ドライ
バー適性診断
- ・ドライバー自身の職場で
受診できる



4 自動車事故による被害者保護のための事業

- ・療養センターの運営
- ・介護料の支給
- ・生活資金貸付業務



5 安全マネジメントプラン

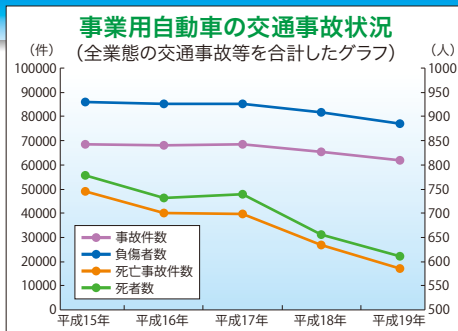
- ・安全管理体制構築、整
備の専門家による支援
(セミナー、講習会の開
催、コンサルティング)



交通事故傾向と運輸安全マネジメント

交通事故について、近年では死亡事故は減少傾向にあるといえます。しかし、事故内容を分析すると、事業用では、件数・負傷者数共に横ばい状態。この中には、一命を取り留めても、身体が思うように動かせず療養生活を余儀なくされるといったケースも含まれているのです。

また、2005年に入ってヒューマンエラーが原因と見られる事故が多発。このような背景から、交通事故を減少させるために、2006年10月「運輸安全マネジメント」が制定され、事業規模の大小を問わず、実施を義務づけられました。



運輸安全マネジメントへの支援

安全輸送とエコドライブには、デジタル式運行記録計やドライブレコーダで日頃の運行データを活用できる安全支援ツールによる効果が期待されています。運転指導や評価を通じて乗務員の意識向上を促すことができます。特に、ドライブレコーダは、事故発生時の走行情報(前方映像、車輛速度、急加減速など)を記録することができるので、危険予知トレーニング<KYT>に活用することができます。

【安全マネジメント支援ツール例】

○デジタル式運行記録計 ○ドライブレコーダ

(例)セーフティレコーダの場合



目標点数を設定し
事故削減に努める



自社の映像を使い、
講習会などを開催

まとめ

- ① 経営者が輸送安全に対し、リーダーシップをとる
 - ② 社内のしくみを作り、安全風土の構築を図る
 - ③ 安全に関する情報交換を積極的に行う、といったことが有効と思われます。
- 交通事故削減のために、多くの事業者にも、安全マネジメントの遂行を望みます。

大和ランテック東日本株式会社 施工営業部

業務課 主任 **高橋 裕之** 様



大和ランテック
高橋氏

エココーポレーション
高木氏

- 効果**
1. 危険注意挙動の件数の減少
 2. SR点数の向上

■ ドライブレコーダ導入の背景

作業現場への移動に営業車を利用。運転が主業務ではありませんが、社員の命・社会への安全・大和ハウスグループの一員という自覚を持たねばなりません。20代前半の若い社員も多く、運転に不慣れで未熟です。交通事故防止のために、危機管理対策危機管理対策が必要と感じました。日頃の運転実態を知りたい、と考えていたとき、ドライブレコーダというものを知りました。

保険会社に相談、3種類の安全機器を試し、①普段の運転のクセがわかる、②日常運転の傾向を分析できる、という視点で評価した

■ SRの運用方法

SR活用の方針は、安全運転への底上げです。事故惹起者、新人を診断対象として、運転実態把握に着手。SRを装着する調査担当自身で、SR設置～メモリスティックの管理までができるように、マニュアルを作成し、運用を開始。

取得データは、外部委託先（エココーポレーション：自動車会社OBが集まった専門コンサルタント会社）に送ります。

外部委託先より個人別詳細報告書の内容説明、アドバイスを受け

大和ランテック東日本株式会社

本社所在地：東京都台東区上野7-14-4
 営業拠点：32拠点（関東20、東北7、甲信越5）
 保有車両台数：38両
 設立：1993年6月3日
 代表者：代表取締役社長 飯田 勝昭
 事業内容：地盤調査、地盤補強工事および沈下修復工事等
 SR導入：2008年2月 SRcomm 3台

会社概要



結果、求めていたデータを得られたのがSRでした。点数だけではなく、散布図などデータの内容が濃く、個別の運転指導でも使えたと判断できました。安全対策を講じるためとはいえ、データ分析等に専任者は配置できないので、データの解析を外部委託することにしました。

エココーポレーションによる報告内容

エココーポレーションによるデータ解析(有料)

1. データ取り込み、解析
2. データ検定、選別
3. 安全運転成績推移一覧表

結果速報

1. 成績推移、改善成果
2. 注意挙動発生要因分析
3. 散布図分析
4. 日報分析 など

詳細報告書、結果報告 分析結果に基づく改善提案(右図)

項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013
危険注意挙動件数	10	15	12	10	8	5
SR点数	50	45	55	60	65	70

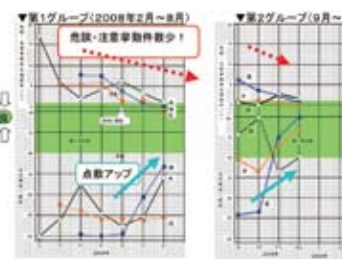
安全運転成績推移一覧表

要改善点・課題	提案
制限速度を守る	ゆっくりとした運転リズム
ブレーキ	制動開始を早める
ハンドリング	信号停止判断遅れを無くす
ハンドル	ブレーキの踏み込みを一定に
ステアリング	右左折時の進入脱出速度を落とす
シート	細い道路(旧道)のカブ進入速度を落とす
シートベルト	ハンドル操作を一定に
シートベルト	市街地走行時運転操作をゆっくりと
シートベルト	高速道路で一定走行に努める

分析結果に基づいた具体的な改善提案

結果をもとに社内反映

SR点数推移



目標(開始3ヶ月で得た結果から設定【月ごと】)

- 危険挙動頻度 0件/100km
- 注意挙動頻度 2件/100km以下
- SR点数 合計60点以上
- 各項目12点以上

SR導入に関して、各担当の感想

【導入前】

- 本社・営業所長 安全運転を心がけて欲しい
- 調査担当員 監視されているような気持ちになる・・・1人で作業することが多いので、一生懸命仕事をしているアピールになる!
- 管理担当者 単純な結果だけでなく、掘り下げて傾向分析したい SRを導入したことによる成果を出すことに専念したい

【導入後】

- 調査担当員 注意すべき点がわかり、操作方法を変えられるようになった
- 管理担当者 運転の実態が目に見える形になってよい 運転の品質は、仕事にも同じ傾向が見られるように推測できる。 SRは仕事の効率化も見られるものになるのでは?と期待

■ 今後の展開

現場からは、SRのわかりやすいデータで、自分の注意すべきところが明確になる、運転操作を変えられることができる、という声があがってきています。コンプライアンス（法令順守）と企業としての社会的責

任を果たすために、安全へのさらなる意識改革を推進し、SRの追加導入も考え、効果アップへ加速したいと考えています。

池町運輸倉庫株式会社 営業本部 危機管理部

部長 山崎 努 様



効果

1. SR点数アップ!
2. 乗務員の安全意識向上
3. 燃費改善 12%の向上!

SRの点数攻略への取り組み

荷主であるローソン様からの要請があり、SRを導入。①運転操作・安全確認を把握し、②安全教育ツールとして活用、③更に燃費を計測することで、エコドライブにも活用できると考えました。課題は、「乗務員にどのようにして安全運転の方法を伝えていくか」。管理指導者4名が、SRに評価される安全運転技術を身に付けよう、と実際に繰り返し乗務。点数向上のためのマニュアルや、SR指導カルテなどのツールや教育指導のしくみを作りました。

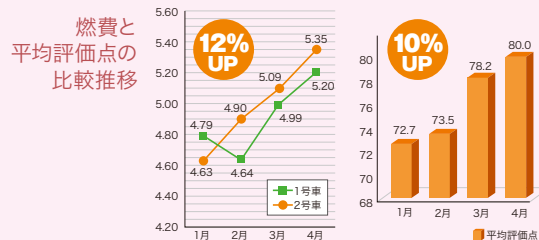
乗務員への指導 ~ポイントは研修後の面談~

- [STEP 1] 個人カルテ作成 (点数推移、同乗指導の回数・内容記録)
単独乗務による自己評価 → 面談実施
- [STEP 2] 指導者の運転操作を助手席で体感研修
→ 帰着後面談 課題を把握
翌日、指導者による添乗教育 → 帰着後面談、自信をつけさせる
- [STEP 3] [フォローアップ] 1週間以内に添乗教育 → 帰着後面談
個人カルテの分析、データ解析 → 面談による指導を実施

池町運輸倉庫株式会社

会社概要

本社所在地：東京都世田谷区経堂4-39-10
営業拠点：本社、営業所5 (足立・厚木・横浜・所沢・越谷)
代表者：原口 信夫
事業内容：食品の集荷からセンター便、各店舗配達まで
車両台数：車両 150両 従業員数 233名
SR導入：2008年1月 SRVideo 2台



今後の展開

安全運転のコツ習得、燃費・エコドライブへの効果の手応えがある上に、評価点を上げるポイントについてなどの会話が増え、コミュニケーションがよくなったという声があがっています。南関東ふそう様や、プリジストン様のご協力のもと、点数と燃費の相関についても、データ収集中です。今後、SR装着車両を増加させ、取り組みを更に加速できればとも考えています。

スナックフード・サービス株式会社 埼玉センター

埼玉センター長 箭内 操 様・ 埼玉センタードライバーチーム 黒崎 淳寛 様



箭内 氏

黒崎 氏

効果

燃費向上
⇒平均燃費改善率 約19%

SR導入の背景と取り組み

従来より、安全や品質面には、積極的な取り組みを行っているため、事故もほとんどありません。(5S活動については、他社から見学にお見えになるほどです!) SR導入の背景には、荷主であるカルビー様のCO₂削減計画の策定・報告が法的に義務化され、データ収集が必要となったことがあります。求めるデータが得られる点から、SRが選ばれ、「燃費向上をめざし、環境にやさしいより安全な運転技術を習得する」ことをビジョンに掲げ、運用中です。3か年でSRの活用方法について位置付けを見出す計画です。

ドライバー全員でSRの知識習得! ~会議内でSR勉強会~

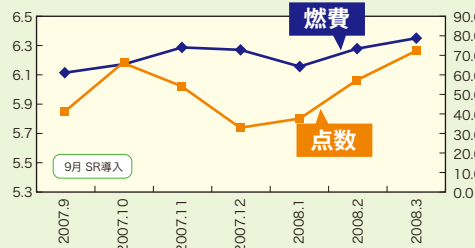
導入直後は、点数が出る仕組みがわからないため、診断結果にも疑問が湧くばかり。月1回の全体ミーティングにSR勉強会を企画。データ・テック社にも参加を依頼し、SRの特性や、他社の取り組み、事例などを学びました。また、ドライバーチームで得点アップのための意識調査を実施し、情報を共有。点数も伸び、ドライバー間のコミュニケーションがはかれた、と実感しています。

スナックフード・サービス株式会社

会社概要

本社所在地：栃木県宇都宮市平出工業団地43-167
営業拠点：工場セクション3、自社運営センター2、委託運営センター4
代表者：代表取締役 永島 悟
事業内容：輸配送・荷役事業/倉庫業/物流情報の情報収集業他
車両台数：5両
SR導入：2007年9月 SRPocket 5台

2007年9月-3月の診断結果



今後の展開

燃費向上に向けて、いろいろな角度から取り組み、分析中。点数と燃費の相関関係についても検証中です。運用中のさらなる疑問を解決するため、データ・テック社とのコミュニケーションの機会を増やしていきたいです。

データ・テック実験報告(その4) in 交流会

ハイブリッドトラックの燃費実験

株式会社データ・テック 技術部 評価グループ

一般道路の走行状態(運転操作)によってどれだけ燃費に違いが出てくるか実験を実施。「アクセル・ブレーキの滑らかさ」が「燃費」にどのように影響するか、相関関係を探ってみました。

【目的】

- 一般の道路を走行し、走行状態により、どれだけ燃費に差が出るかを計測する。
- 「燃費」とスムーズ診断の「アクセル・ブレーキの滑らかさ」との関係を考察する。

【条件】

- 試験車両：ハイブリッドトラック
 - ・最大積載量 2,000kg
 - ・車両総重量 5565kg
 - ※積荷なしの状態の実験
- 走行コース：
 - ・東京都大田区京浜島
 - ・首都高速(横羽線、湾岸線)

【試験項目】

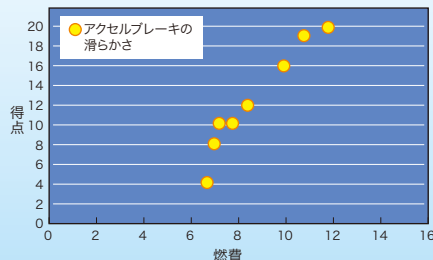
次の運転操作の違いにおける燃費と点数を測定

- ① 発進加速の違いによる変化
- ② 発進後の速度の違いによる変化
- ③ 速度ムラによる変化
- ④ 停止方法の違いによる変化
- ⑤ 高速走行時の変化

【結果】

アクセルの煽りや余計な加減速が減少した得点の高い運転の場合は、燃費の向上が見られます。

スムーズと得点と燃費の相関傾向



展示会情報



自動車技術展

人とくるまのテクノロジー展2009

AUTOMOTIVE ENGINEERING EXPOSITION

に出展
します!

2008年 5月20日(水)~22日(金)
10:00~17:00

in パシフィコ横浜展示ホール
主催 社団法人自動車技術会

弊社では、毎年「人とくるまのテクノロジー展」に出展しております。本年もSR(セイフティレコーダ)を活用し、「交通事故を減らすには、どうしたらいいか」をテーマに展示を企画しております。

株式会社データ・テックブース

小間番号 147

ご来場お待ちしております

データ・テック提供講演『交通事故を減らすために、どうしたらいいの?』

新製品・新技術コーナー 第1会場

① 5月22日(金) 14:00~14:30

『交通事故を減らすために、どうしたらいいの?①
~エビデンス(車両挙動)をもとに運転を評価し、
事故予防を考える~』

講演者

佐賀大学大学院 医学系研究科 教授 博士(医学) 堀川 悦夫 様

② 5月22日(金) 16:15~16:45

『事故を減らすために、どうしたらいいの?②
~(仮)セイフティレコーダ(SR)を活用して
事故防止を図る~』

講演者

SR導入企業様をお招きする予定です

株式会社データ・テック SRイベントスケジュール(4・6月)

セミナー参加には、事前申込みが必要です

■東京地区セミナー 4月17日(金)

会場：東京都トラック総合会館
(東京都新宿区四谷)

■大阪地区セミナー 6月12日(金)

会場：ウェルシティ大阪 厚生年金会館
(大阪府大阪市西区)

■東京地区セミナー 6月19日(金)

会場：埼玉県トラック総合会館
(埼玉県さいたま市大宮区)

【お問い合わせ先】

株式会社 データ・テック
広報まで
TEL 03-5703-7060

*日程、会場等は都合により、変更する場合があります。変更になる場合は、事前にご連絡いたします。

株式会社 データ・テック

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-42-12
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
http://www.datatec.co.jp